

達成度：R7.3.31の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

## 学校教育課の目標（令和6年度）自己評価書

学校教育課長 會田 悦久

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 学校運営への支援</p> <p>(1) 創意ある教育課程を推進し、学力の向上を図ります。</p> <p>(2) 学習指導等専門支援員、介助員等の配置により、個に応じたきめ細かな指導を推進します。</p> <p>(3) 1人1台端末の活用を中心に授業改善の推進を図るICT授業支援教員、ALTのサポートや外国籍児童生徒への日本語指導を行う教育アドバイザー、養護教諭不在時の対応を行う学校保健支援教員を配置し、学校運営を支援します。</p> <p>2 特色ある教育活動の推進</p> <p>(1) 人権・同和教育の推進に努めます。</p> <p>(2) 教育ファシリテーターを活用し、ふるさと学習（酒々井学）を推進し、地域に誇りと愛着を持つ児童生徒を育成するとともに、主権者意識を育む中で、町や地域等に貢献できる児童生徒を育成します。</p> <p>(3) ALT、小学校英語専科教員の積極的活用により、英語力を高め国際社会で活躍で</p>	<p>4</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>4</p>	<p>・各校の授業改善を進めることができました。</p> <p>・各種支援員等の配置により少人数指導等、きめ細かな指導を行うことができました。</p> <p>・人的配置が充実したことで、個に応じた指導を進めることができました。</p> <p>・ICT授業支援教員により、授業におけるICT利用が進み、授業改善に向かっていきます。</p> <p>・教育アドバイザー、学校保健支援教員は、児童生徒への指導も含め、学校運営を大きく支援しています。</p> <p>・町の研究校に大室台小学校を指定し、印教連指定と合わせて人権教育授業研究会を開催しました。町内外からの参加者と、人権教育、道徳教育に関する研修を深めました。</p> <p>・教科と関連付けながら、ふるさと学習を推進することができました。こども模擬議会では、自分の町をよくしていこうとする提案型の質問が多くありました。</p> <p>・町のために自分たちができることを実践する事例もありました。</p> <p>・人的配置が充実し、英語力の向上が図られました。また、</p>

<p>きる児童生徒を育成します。</p> <p>(4) 酒々井中学校生徒を対象とした国際交流（派遣・受入れ）事業を再開し、現地での体験学習や酒々井中学校でともに活動することを通して、コミュニケーション能力を高め国際社会に対応できる人材を育成します。</p> <p>(5) 保育園・こども園と小学校のふれあい交流会、小学校と中学校間の学習や基本的な生活習慣の継続的な取組により、保小中が連携して一貫性のある指導を実践します。</p>		<p>担任教師への英語科指導力向上の研修も進みました。</p> <p>4 ・令和6年度の国際交流（派遣・受入れ）事業は、計画に基づき実施し、目標を達成できました。</p> <p>5 ・トラブル等に対応できるよう、様々なリスクを洗い出す必要がありました。</p>
<p>3 教職員の資質や指導力の向上</p> <p>(1) 不祥事根絶に向けて研修を進め、教職員に高い倫理観を維持させます。</p> <p>(2) 学校の求めに応じて教育アドバイザーを各校に派遣し、特に若年層教員の指導力向上のためへの助言・指導を行います。</p> <p>(3) 「教職員の特色ある教育研究支援事業」をとおして、教職員の自主的な教育研究を支援します。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>5</p>	<p>・町内全教職員に向けた不祥事根絶研修を実施するとともに、各小中学校に、不祥事根絶に係る全体計画及び年間計画の作成を依頼しました。</p> <p>・初任者を除く若年層教員に対して、教育アドバイザーの派遣により学期1回以上の研修機会をもちました。</p> <p>・学習指導及び生徒指導に関する助言・指導を実施し、指導力向上が図られました。</p> <p>・3つの教育研究プランに対して支援を行いました。</p> <p>・保小中連携推進事業において、その成果を共有していくこととなっています。</p>
<p>4 教育条件の整備</p> <p>(1) 墨、馬橋、伊篠地区でスクールバスを運行し、酒々井小学校児童の交通手段を確保します。</p> <p>(2) 「修学旅行への助成事業」により、保護者の経済的負担軽減を図ります。</p> <p>(3) 部活動の地域移行を試行し、課題を整理します。</p>	<p>5</p> <p>5</p> <p>3</p>	<p>・スクールバス運行により、44名に対して交通手段を確保することができました。</p> <p>・予定どおり修学旅行への助成を実施し、保護者の経済的負担軽減を図りました。</p> <p>・持続可能な部活動の地域展開を図るため、地域移行推進協議会での話し合いを重ね、令和7年度中に試行をすることとしました。</p>

<p>5 チャレンジ目標</p> <p>(1) 千葉県的人事評価制度の適切な運用がなされるよう各校に指導し、評価の信頼性を高めるとともに、評価が人材育成につながるよう、意識化を図ります。</p> <p>(2) 小学6年生及び中学生の英語検定を積極的に支援し、主体的な学習による英語力の向上に努めます。</p> <p>(3) 学校の行う不登校対策への支援を実施します。</p> <p>(4) 教員の働き方改革を推進し、児童生徒と向き合うことのできる時間の確保を図ります。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に実施することができました。日常的な助言と記録により、人材育成を図りました。</li> <li>・中学3年生の英検3級以上の取得率は43.7%（昨年比+2.3ポイント）となりました。</li> <li>・6年生の英語学習への関心を高め、英検受験率は、70.7%（昨年度比+18.2ポイント）となりました。</li> <li>・訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカー等との連携を支援しました。また、ケース会議に参加するなどの学校支援をしました。</li> <li>・働き方改革を推進しており、長時間の勤務者は減少しています。しかし、全体の状況としては、勤務時間は微減にとどまっています。</li> <li>・ICT活用などにより、さらなる校務の効率化を図ります。</li> </ul>
--	-------------------------------------	--